

- 20、戦時食糧の充實に就て
- 21、脱脂糠を原料とした栄養食
- 22、米の害虫
- 23、新しい米古米(百三十二年前の米)
- 24、代用食種の栄養
- 25、戦時食馬鈴薯パンの作り方
- 26、甘藷と米の栄養比較

解 説
 實物見本 二點
 九點
 四點
 十一點
 實物見本九點と實演
 圖表二點、實物二點

第三部 米の増産の部

- 1、米の増産資料
- 2、米の増産資料
- 3、米の増産資料
- 4、米の反當收穫量の變遷
- 5、米の豊凶參照試驗成績
- 6、米の肥料試驗成績
- 7、山梨縣産米検査標準品
- 8、米の依裝
- 9、本年度産米増産の概要
- 10、施肥改善で増産實施
- 11、事變下の米の増産計畫と實績
- 12、農業保險とお米の増産
- 13、きつと増産(耕地、苗代、田植、肥料、除草、刈取)

見本實物 三五點
 印刷 五點
 實物品種別 一四點
 圖 解
 實物二五點、解説四點
 實物見本 二四點
 五點
 圖 表
 郡市別圖 表
 圖 表

農林省米穀利用研究所
 農村更生協會
 東山梨郡農會
 南巨摩郡農會

財團法人富民協會
 農事試驗場
 農產物検査所
 農務課

14	玉蜀黍の増産と利用方法	實物十五點、圖表三點	忍野村
15	陸稻の増産實績	實物、圖表	三吉村
16	米の増産實績	圖表、寫真十枚	藤田村
17	畜力利用とお米の増産	圖表、寫真十枚	富士見村
18	稻刈競技會の成績	印刷一〇點	山梨縣農會
19	米の増産計畫の案	印刷	東山梨郡農會
20	米穀の生産高調	解物見本	中巨摩郡農會
21	米穀の收穫高調	解物見本	北巨摩郡農會
22	日本一高原地八ヶ嶽山麓産水稻	實物見本	農道場一機山寮會
23	木灰蒐集運動の調	解物見本	甲府市農會

◎以上の外に多數縣各課、各團體より出品が陳列してありますし、尙會期中は展覽會場の入口左側に縣廳出張所と展覽會事務局を設けて國民精神總動員、特に米の節約、増産に關する一切の相談に應ずることになつてゐますから充分利用して下さい。

3、實施方法与展覽會成績の概況

一、大展覽會實施方法

大展覽會は國民精神總動員運動と其の一翼である農業報國運動の新しい施設事業として實施することとしたので、縣廳企畫課、總動員課を中心として農務課、衛生課及農産物検査所、農事試験場、縣郡農會、關係町村の協力参加を求め前年十二月二十三日以後前後四回に亘る打合會を開いて實施の促進と萬全を期することとした。

尙甲府市岡島百貨店は五階全部を會場に、更に縣廳出張所實演室を新設提供した外會場内外の裝飾、陳列出品物の

運送に相當額の奉仕をなし時局下の國策に協力され、亦東京松屋吳服店では日本精神を顯現する繪、デオラマを多數貸與され展覽會に一段の光彩を副へられたことは感謝に堪へない次第である。

凡そ近來提唱せらるゝ色々の運動はあるが稍もすれば事務的、形式的に陥つて多數の大眾に徹底せぬ憾が多分にあり。茲に於て時局下國民の總てが深き關心を持つて協力せねばならぬお米の事實問題を控へて縣民に對し、眼から、耳から、口から、生きた實際の教育をして時局の認識を強調し、日常生活に反映せしめて戦時下のお役に立たせ様としたのが今回の展覽會の狙ひどころであつた。

従つて展覽會々期中、會場入口に縣廳の出張所を開設して關係係員が出掛けて精神總動員運動、お米の節約、増産等に就て參觀者の相談相手になり、更に會場出口には實演室を設けて七分搗の實演や代用食、モロコシのおねり、ライスカレー、パン、そばがき、ほうとう等の實驗を行ひ、或は印刷物配付或は食堂と連絡して試食に供する等の便宜を圖つて實物教育に乗り出し、大眾に呼びかけて徹底に努めた。尙會期中の催物としては國民精神總動員運動の展開を資するため東京精動中央聯盟理事連沼門三氏を講師として大講演會を開催し、次で我國に於ける榮養學界の權威榮養研究所長佐伯博士の講演、或は米の増産講演會に縣下指導の一線に立つ各農會其の他の専門技術官を聽講生として増産に關する寺尾博士の大講演會を開催する等各方面から凡ゆる機會を利用して米に關する精神的、經濟的、宣傳指導に努めた。

二、展覽會成績の概要

展覽會開會初日二月十一日安岡知事、柴山總務部長、石川經濟部長、久山警察部長、伊藤學務部長、農業報國聯盟本部職員等の參觀を始めとして入場者は一萬五千を超ゆる盛況であつた。

次で會期中各方面から農業團體、婦人團體、中小學校生徒等の團體入場者の外、毎日相當數の入場者があり、合計は會期を通して縣内人口の三分の一を超へた二十萬人餘に達した見込である。尙縣外からは農林省、國民精神總動員中央聯盟、内閣情報部、京都、神奈川、栃木、長野各縣廳等より係官の來觀があつた。

展覧會に就ては甲府放送局より前後五回に亘る地方放送をなし節米運動を縣民に呼びかけたが、二月二十一日「日
本で最初のお米の展覧會」と題して全國に放送がなされ中央地方を通じて節米と増産の實際運動として呼びかけた。
縣廳出張所（展覧會事務局）を訪ねたものは農村のみならず町方の人達も相當多かつた。そして精動運動や、肥料
と努力の少い今日、増産を如何にするか、或は節米代用食に就て質問や意見の申出も相當あつて折角の出張所が或程
度有効に利用されたことは新しい試みとして効果的であつた。尙七分搗代用食の實演に就て榮養改善への實際指導は可
なり婦人團體或は關係者への反響効果が多かつた。
要するに此の展覧會を契機に時局下の最も大切である米に就ての認識を縣民に與へ戦時食糧對策に資し、亦一面有
効に紀元二千六百年を奉讃し奉り關係方面の協力で豫期以上の成績を收め得たことは誠に同慶とする所である。

— 完 —

12

保存期限

三年

決裁指定

局長委任

決行指定

訓

第一六一

大臣		委員		政務 次官	政務 次官	參與官	書記官	審案 筆記者
局長		主務 局長						
主務局長		主務課長		主務課員				
局長		局長		局長		局長		
課長		課長		課長		課長		
大臣		委員		高級副官		書記官		
局長		主務局長		主務副官		書記官		
局長		主務課長		主務課員		書記官		
局長		局長		局長		局長		
課長		課長		課長		課長		

政務次官
參與官
決裁前後
連帶
課名

壹第四七三三號

發煙筒拆下件

決行(決裁)後
回覽課名

起元廳(課名)
世城縣警分課

陸軍

田中

陸普

別官より茨城県警防課長佐谷豊之助へ通牒

七月二十五日附警防第一二九號に係る申請趣詔可なり陸軍兵器本部よりテ採下方取計ハシメラルニ付承知相成度

陸普第七三四三號

昭和七年十月十五日

陸普

別官より陸軍兵器本部次長へ通牒

茨城県警防課長佐谷豊之助より別紙字ノ通申請有之認可
マシラル付可然取計ト相成度依命通牒

陸普第七三四三號

昭和七年十月十五日



第四七三三

昭和十五年九月三十日
大官房

警防發第一二九號

昭和十五年七月二十五日

287

茨城縣警防課長住谷豐之助

陸軍大臣東條英機殿

發煙筒拂下認下申請

左記彈藥拂下認可相成度申請又

記

九四式水上發煙筒	品目	五個	負數	使用目的	受領希望	受領希望	摘要
八月一日ヨリ防空演習					宇都宮師団	七月三十日	

警防課印

備考

昭和十五年七月三十一日陸兵補第一〇四一號

茨城縣

宇師兵ニ到着シアリ

茨城縣警察部警防課長

東京市麹町区

陸軍省御中



注意

(本審案用) 概年以内保存ノモノニ使用スルモノトス

陸 軍

保存期限

三年

決裁指定

局長委任

決行指定

第一七二號

大臣 委 員			件 名		受 領 番 號	
局長 主務 局長			發煙筒杯下件		壹第 四八二四 號	
次官		政務 次官	參與官 回付 決裁 前後 連帶 課名			
高級 副官		參與官	起元廳 (課名)			
主務 課長		書記官	執行 (決裁) 後 回覽 課名			
主務副官 主務課員		審案 筆者	群馬縣教育委員会			
房官大臣 了結 昭和 年 月 日	課 局 務 主 領受 昭和 年 月 日	主 務 局 長		連 帶 局 長		行決 (裁決) 後 回覽
了結 昭和 年 月 十九日	領受 昭和 年 月 十四日	主 務 局 長		連 帶 局 長		
出 提 昭和 年 月 日		主 務 局 長		連 帶 局 長		
領受 昭和 年 月 日		主 務 局 長		連 帶 局 長		
領受 昭和 年 月 日		主 務 局 長		連 帶 局 長		
領受 昭和 年 月 日		主 務 局 長		連 帶 局 長		
領受 昭和 年 月 日		主 務 局 長		連 帶 局 長		



陸普

副官馬群馬縣警務部長へ通牒

警防第三三五號一旨懸付申請趣認可せし陸軍通牒
本部より抄下取計ししよりハ付承知相成度

陸普第五二三四號

昭和五年七月十五日

今令月日々七月十五日付し

通牒

不之認可せし付可

官房中守

校砲隊

第五二三四號

昭和五年七月十五日



陸普

副官ヲ群馬縣警察部長ニ通牒

警察防第ニ五號ノ一前題ノ係ル申請ノ趣認可セラル陸軍大臣
本部ノ多抄下方取計ニシヨルハ付承知相成度

陸普第五二三四號

昭和十五年七月十五日

陸普

副官ヲ陸軍大臣本部次長ニ通牒

群馬縣警察部長ヲ別紙字ノ通申請不之認可セラル付可
然取計ニ相成度依命通牒

陸普第五二三四號

昭和十五年七月十五日





警防第三二五號ノ一

陸軍省
群馬縣
警察部
15.7.15
午後
陸軍大臣

發煙筒拂下認可相成度件申請

昭和十五年七月 日

群馬縣警察部長

陸軍大臣 東條英機 殿

左記彈藥拂下認可相成度申請ス

左記

品名	九四式水上發煙筒
員數	一本 一五
使用目的	七月二十日ヨリ全月二十九日迄ノ第二次東部防空訓練ニ使用ノタメ
受領希望部隊	宇都宮師團 兵器部
受領希望期日	七月二十日
摘要	



第一八〇號

(裁決) 行決 覽 回 後	帶 連		決 行 指 定	局 長 任 委	決 裁 指 定	三 年	保 存 期 限
	長(部)局	長(部)局					
			大 臣	委 任	件 名	番 號	受 領
			官 次	官 次 務 政			
			委 任				
長 課	長 課		長 局 務 主 官 副 級 高 官 與 參				
	醫 事	衣 糧	河 村	河 村			
			長 課 務 主	副 官	主 務	書 記 官	
			河 村				
			員 課 務 主				
			房 官 巨 大	課 局 務 主			
			了 結 領 受	出 提 領 受	號 番		
			昭 和 年	昭 和 年	昭 和 年	昭 和 年	
			十 月 十 九 日	十 月 十 四 日	月 日	月 日	

壹受第 四八二七號
 滿洲國黑河省訪日商工視察團二對之便宜條
 與方一件

政務官 同付(決行前)

拾年保

(決行後)

審案 筆記者

陸

陸軍省

15.10.12

15.10.12

副官ヨリグリコ株式会社長宛通牒 (陸普)

首題一行別紙二十五名ニ對シ來ル十七日(貴社大阪)

グリコ株式会社

大阪市西淀川区御幣島村五三

一七四號

昭和七年十月十五日

副官ヨリ糧秣本廠長宛通牒

前同文但シ(一)内ヲ「グリコ株式会社」ニ「」同ヲ「承

知相成度」ニ作ル

陸普第七三七四號

昭和七年十月十五日

副官ヨリ臨時東京第一陸軍病院長宛通牒

首題一行別紙二十五名ハ來ル二十一日午後二時貴病

院傷病兵ヲ慰問致度趣ニ付參院ノ節ハ可然便

宜供與相煩度

陸普第七三七四號

昭和七年十月十五日

副官ヨリグリコ株式会社長宛通牒 (陸普)
首題一行別紙二十五名ニ對シ來ル十七日(貴社大阪
工場見學方許可セラレシニ付)便宜供與方相煩度
進ヲ見學範圍ハ第三類ニ付申添フ

陸普第七三七四號

昭和五年十月十五日

副官ヨリ糧秣本廠長宛通牒
前同文但シ(一)内ヲ「グリコ株式会社」ニ「」内ヲ「承
知相成度」ニ作ル

陸普第七三七四號

昭和五年十月十五日

副官ヨリ臨時東京第一陸軍病院長宛通牒
首題一行別紙二十五名ハ來ル二十一日午後二時貴病
院傷病兵ヲ慰問致度趣ニ付參院ノ節ハ可然便
宜供與相煩度

陸普第七三七四號

昭和五年十月十五日

陸軍

副官ヨリ憲兵司令部本部長宛通牒

首題一行別紙二十五名ニ對シ來ル十七日グリコ株式
會社大阪工場見學方許可セラレシニ付承知相成度
尚同一行ハ來ル二十三日午後二時臨時東京第一陸軍
病院傷病兵ヲ慰問可致豫定ニ付併セテ承知相
成度

陸普第七三七四號

昭和五年十月十五日

尚

河村 軍務

日大總第六八一號

康德七年十月四日

陸軍省領事第四八二七

和昭 15.10.4. 午後 官臣

陸軍省 15.10.5

駐日滿洲國大使館
參事官 野田清武

陸軍省副官 川原直一 殿

滿洲國黑河省訪日商工視察團ニ對スル便宜供與
手配方依頼ノ件

拜啓 陳者弊國黑河省訪日商工視察團一行別表二五名ハ同省開拓廳
商工主任宮谷勝實引率ノ下ニ別添名簿及日程表ニ依リ貴國各地ニ視
察見學旅行可致候ニ付諸般ノ便宜供與方御高配賜度御依頼申上候
追而東京滞在豫定表ハ別紙ノ通りニ御座候

敬具

一名簿日程八部、東京日程八部添附

駐日滿洲國大使館

陸軍

一、死亡事由記載例 (但シ軍屬等ニ在リテハ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル當時ノ任務及死亡事由ヲ成ルベク詳細スルモノトス)

イ、昭和十二年一月十日滿洲國濱江省哈爾濱ニ於テ猩紅熱ニ罹リ同月二十日哈爾濱陸軍

第四回黑河省訪日商工視察團々員名簿

氏名	職務	商號	現住	年齢	出身地
室谷勝實	黑河省開拓商工主任		黑河興亞路官舎三三	三三	鳥取縣
倉重政雄	黑河商工公會理事		黑河興隆街一四〇	三六	福河縣
岩倉一彦	孫吳商工公會主事		孫吳瑞鐘街	三〇	德島縣
徐毅芳	黑河省高等官補		黑河七道街二七一	三一	奉天省瀋陽縣
王貫亭	黑河商工公會參事		黑河興隆街二五〇	四一	山東省黃縣
仲竣之	孫吳商工公會理事		孫吳縣瑞鐘街	四一	"
于壽山	黑河商工公會參事		黑河中原街一五二	四九	山東省掖縣
呂峰岐	電氣工事請負	黑河電氣	孫吳瑞鐘街	四三	山東省黃縣
滕遼初	食糧雜貨商	東興商店	黑河大興街二〇	五六	山東省掖縣
陳新三	綿糸布販賣商	東成商店	黑河官渡路二九	二八	"

一、死亡事由記載例

(但シ軍屬等ニ在リテハ傷痕ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル當時ノ任務及死亡事由ヲ成ルベク詳記スルモノトス)

イ、昭和十二年一月十日滿洲國濱江省哈爾濱ニ於テ猩紅熱ニ罹リ同月二十日哈爾濱陸軍

團員	職作	雜貨商	萬興利	孫吳縣西二條路	三三	山東省昔縣
〃	劉德	飲食店業	松竹飯店	〃	二四	濱江省青島縣
〃	劉居道	雜貨販賣業	天順號	奇克縣中央街六一	三三	山東省掖縣
〃	王子厚	〃	宏泰商店	孫吳縣瑞鐘街	四一	山東省昔縣
〃	孫紹虞	綿糸布雜貨販賣業	豐元號	黑河興隆街二五三	三七	〃
〃	孫寶祥	鮮菓販賣業	祥茂永	黑河六道街一九九	六四	奉天省營口
〃	孫新	孫吳縣工公會理事	和順隆	孫吳縣瑞鐘街	二七	山東省濰縣
〃	孫顯亭	五金雜貨販賣業	永康五金行	〃	三七	山東省招遠縣
〃	宋朗齊	雜貨販賣業	源茂盛	烏雲縣城內	三八	〃 文登縣
〃	嶺雲峰	風呂業	日新池	孫吳縣延清街	四四	錦州省興城縣
〃	黃占財	菓子製造業	德興商店	黑河迎恩路五一六	四九	山東省招遠縣
〃	香仁鋒	黑河商工公會事務局員		黑河七道街五六一	三一	關東州普蘭店

一、死亡事由記載例 (但シ軍屬等ニ在リテハ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル當時ノ任務及死亡事由ヲ成ルヘク詳記スルモノトス)

イ、昭和十二年一月十日滿洲國濱江省哈爾濱ニ於テ猩紅熱ニ罹リ同月二十日哈爾濱陸軍

李秋圃	印刷業	隆興書局	黑河南大街四二	四五	山東省濰縣
呂蓉序	靴鞋製造業	連玉工廠	興隆街二四	三四	文登縣
孫靈亭	"	大興工廠	迎恩路五一九	三九	河北省臨榆縣
劉西川	木材販賣商	三合盛	官渡路五九五	四三	關東州普蘭店

一、死亡事由記載例

(但シ軍獨等ニ在リテハ傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル當時ノ任務及死亡事由ヲ成ルヘク詳記スルモノトス)

イ、昭和十二年一月十日滿洲國濱江省哈爾濱ニ於テ星江熱ニ罹リ同月二十日哈爾濱陸軍

第四回黑龍省訪日商工觀察團觀察豫定箇所

旅順 戰蹟巡拜

門司 滿洲領事館、商工會議所

宮崎 宮崎神宮、市役所、商工會議所、青島、鴉片

別府 名所古跡

神戶 市廳、商工會議所、取引所、鐘紡工場、大同燃寸會社、神戸港

大阪 府廳、市廳、滿洲國領事館、商工會議所、造幣局、中央市場、

朝日新聞社、鐘紡工場、島田硝子會社、西野田職業學校、夕日

工場

橿原 橿原神宮

奈良 市役所、名所古跡

一、死亡事由記載例

(但シ軍屬等ニ在リテハ傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル當時ノ任務及死亡事由ヲ成ルヘク詳細スルモノトス)

イ、昭和十二年一月十日滿洲國濱江省哈爾濱ニ於テ猩紅熱ニ罹リ同月二十日哈爾濱奎寧

山田 大神宮、市役所、商工會議所、二見浦役場^町

名古屋 熱田神宮、縣廳、市役所、商工會議所、製陶會社

東京 明治神宮、靖國神社、滿洲國大使館、陸軍病院、議事堂、東日

新聞社、王子製紙會社、大日本麥酒會社、花王石鹼會社、森永

製菓會社、屠殺場

日光 名所古跡

小田原 箱根遊覽

京都 名所古跡

宮島 嚴島見學

京城 朝鮮神宮、總督府、滿洲國領事館、商工會議所、昌慶苑、德壽

宮

一、死亡事由記載例 (但シ軍屬等ニ在リテハ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル當時ノ任務及死亡事由ヲ成ルヘク詳記スルモノトス)

第一回黒河省訪日 陸工視察團日程表

日次	月	日	概況	各務	時刻	利車	備考	泊	
一	一〇	三	土	星	河邊午前	八〇〇	三〇二	(集合)	
二	六	日	陰	霜	濱着	六二〇		自主行動	
					午後	五五	一六	車中 (集合)	
三	七	月	周	水	子	午前	九二八		
					午後	九五七	六〇三		
				旅	順着	一一	一〇	遊覽巡拜	
				"	午後	二	三〇	バス及大南門使用	
				大	連	着	三	三〇	大連
四	八	火	"		午前	一一	〇〇	船中	
五	九	水						"	

一四	一二	一一	一〇	九	八	七	六	五	四	三	二	一
木	水	火	月	日	土	金	木	門	司	着	發	發
"	"	大坂	"	神戶	"	別府	"	宮崎	"	着	着	發
		着	發	着	發	着	發	着	發	午後	午後	午前
		"	午後	午前	午後	"	"	午後	午後	八〇四	六三八	四三八
				七〇〇	一三〇	九三二	三三八	二四二	二三一			
				電車	阪急	船						
				市内視察關係先訪問	市内視察關係先訪問	市内視察				宮崎神宮參拜		
				自由行動	市内視察	市内視察						
				大阪	"	船中	"	別府	宮崎			
				關係先訪問	"	"	"	"	"			

一、死亡事由記載例
 一、昭和十二年一月十日滿洲國濱江省哈爾濱ニ於テ星江熱ニ罹リ司月二十日合爾濱至員

(但シ軍瀾等ニ在リテハ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル當時ノ任務及死亡事由ヲ成ルヘク詳記スルモノトス)

一、死亡事由記載例 (但シ軍屬等ニ在リテハ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル當時ノ任務及死亡事由ヲ成ルヘク詳記スルモノトス)

イ、昭和十二年一月十日南州國賓工省合爾賓ニ於テ星江熟ニ雇リ司月二十日合爾賓返車

一四 一八金大阪() 大、阪

一五	一九土	阿部	午後	七一五	
	榎	原	午後	八〇七	榎原神宮參拜
	"	飯	午後	一一〇六六一八	
	奈	良	午後	一一三五	市内視察
	"		午後	六一六一一〇	
	堀	山	午後	七三六	
	"	崎	午後	七三九二一五	
	二見	浦	午後	九一五	二見浦
二六	二〇日	發	午前	一〇〇〇	電車
	"	山	午後	七一三二四二	大神宮參拜關係先訪問

一、死亡事由記載例 (但シ軍屬等ニ在リテハ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル當時ノ任務及死亡事由ヲ成ルヘク詳記スルモノトス)

一七	二一月	〃	發	〃	九、五九	二二	市内視察係先訪問	車中 (寢台)	名古屋
一八	二二月	火東	着	午前	六、二〇		市内視察	東京	
一九	二三月	水	〃	〃			關係先訪問	〃	
二〇	二四月	木	〃	〃			日歸	〃	
二一	二五月	金	〃	〃			自由行動	〃	
二二	二六月	土	發	午後	一、四〇八一二				
			着	〃	三、二〇		箱根遊覽	強羅	
二三	二七日	〃	發	〃	一、一〇五	一、〇三三		車中 (寢台)	
二四	二八月	京	着	午前	七、四九		市内視察	京都	
二五	二九月	火	〃	午後		一一九	自由行動	〃	
二六	三〇	水	發	〃	正午				

名古屋

車中 (寢台)

東京

〃

〃

〃

強羅

車中 (寢台)

京都

〃

一、死亡事由記載例 (但シ軍屬等ニ在リテハ傷痕ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル當時ノ任務及死亡事由ヲ成ルヘク詳記スルモノトス)

三二	三一	三〇	二九		二八一	二七
五	四	三	二		一	
大黒	月哈爾濱	日奉天	土	京	金釜	下
河着	着	着	着	城	山	關
"	"	"	"	着午後	着午前	着
六一六	一、〇〇七	八、四〇〇	八、四〇〇	八、二〇〇	六、〇〇〇	七、二〇〇
	一、〇〇〇	二、一	五	五	七、七	三、〇
			市内視察關係先訪問			鳥見學
(寢台)	車中	車中	車中	京城	船	船

滿洲國黑河省訪日商工視察團（一行二五名）

東京發定日程

旅 宿

一月廿二日（火） 午前 六二〇 東京着（名古屋ヨリ）

・ 七〇〇 宮城 参 拜

明治神宮、靖國神社其他

午后 二〇〇 陸軍第一病院

・ 三〇〇 王子製紙十條工場

廿三日（水） 九〇〇 市 役 所

・ 九三〇 商工會議所

・ 一〇〇〇 國會議事堂

・ 一一三〇 大 使 館

廿四日（木） 日光 往 復

廿五日（金） 午前 八〇〇 芝浦、屠獸所

・ 一〇〇〇 鶴見、森永製菓工場

午后 自由 行 動

廿六日（土） 午前 市内 見 學

午后 一四〇 東京發（小田原へ）

第一九一號

(裁決)行決 覽回後		帶 連		執行指定		決裁指定		保存期限	
長(部)局		長(部)局		大臣		件 番 受		領 號 名	
				委		壹第三四一九號			
				政務次官		泰國軍醫、陸軍衛生施設並民間工場見學、件			
				官 次 官 次 務 政		委			
長 課		長 課		長局務主官副級高 官與參		書記官		元應(課名)	
		工政 機機 衛生 醫事		河村 原		主務 副官		陸軍	
		官務管理 防衛 機本		河村 廣		書記官		陸軍	
				長課務主		主務 副官		陸軍	
				房官臣大		課局務主		陸軍	
				了結願受		出提領受		陸軍	
				昭和 昭和		昭和 昭和		陸軍	
				年 年		年 年		陸軍	
				十月廿二日		七月廿七日		陸軍	
				日		日		陸軍	

政務官 回付(執行前)

拾年保

(執行後)

審案 書記者

陸軍

陸

軍

在京泰國武官

泰國軍醫、陸軍衛生施設見學ノ件

列(官)リ。陸軍(軍)医学校長、臨時東京

第一及第三陸軍病院長及衛生材料

本廠長宛通牒(以下陸普)

今般来朝セル左記泰國軍醫ニ對シ別紙日程

ニ據リ、貴校(院)(廠)ノ見學ヲ許可セラレタル

ニ付可然取計ニ相煩度

左記

海軍軍醫大佐 レック、スミット

同 少佐 クン、カムチヤット、ヨーターパート

陸軍軍醫大尉 ラムケンリット、アパカラ

陸普第四九二三號 昭和七年七月十八日

◎注意、軍医校及第三陸軍病院へハ左ノ進書

ヲ附ス

陸軍

追テ晝食(一人二月以内)ハ貴方ニ於テ準備方
取計ハレ度之カ費用ハ債主ノ請求者添付
ノ上陸軍大臣官房經理宛請求相減度申
添フ

泰國軍醫ノ島津製作所見學ノ件

別入長手 株式会社島津製作所宛通牒

今般來朝セル左記泰國軍醫ニ對シ七月二十六
日貴社ニ出立作課ノ見學ヲ許可セラレタルニ付
可然取計相煩度

左

記

陸普第四九二三號

昭和五年七月十八日

前記

ニ同シ

泰國(軍醫)ノ陸軍衛生施設並民間工場
見學ノ件

刻官ヨリ憲兵司令部總務部長宛通牒
首題ノ件左記ノ通許可セラレタルニ付承知相成
度

左

記

一見學者

海軍(軍醫)大佐 レックク、スミット

同

少佐 クレカムチマツト、ヨーターパート

陸軍(軍醫)大尉

ラムケンリット、アバカラ

二見學子日時及個別

七月二十三日

午前十時ヨリ

陸軍(軍醫)學校

午後一時ヨリ

臨時東京第一陸軍病院

七月二十四日

午前十時ヨリ 臨時東京第三陸軍病院
午後三時ヨリ 陸軍衛生材料本廠

七月二十六日

株式会社島津製作所社長三浦謙三氏

陸普第四九二三號

昭和五年七月十八日

泰國將校、民間工場見學ニ関スル件

刻官ヨリ兵器本部、航空本部、西總務

部長及海軍省刻官宛通牒

首題、件左記ノ通許可セラレタルニ付承知相成
度

左記

一見學者

前記ニ同シ

二見學日時及個所

七月二十六日

株式會社島津製作所之申請之件
陸軍衛生施設並島津製作所之申請之件

陸普第四九二三號

昭和五年七月十八日

陸軍衛生施設並民間工場見學ノ件

列官官在京奉國公使館附武官宛回答

七月十二日附貴翰ヲ以テ御申越有之候陸軍衛生施設並島津製作所ノ申請ノ件

許可セラレ候條及回答候也

追テ陸軍衛生施設ノ見學ハ別紙日程ニ據

リ実施可致ニ付申添ハ候

陸普第四九二三號

昭和五年七月十八日



別紙

泰國海軍軍醫ノ見學行動日程

月 日	午前(後)	見 學 行 動
七月二十二日	前 九三〇 全 九四五 全 一〇〇〇 後 一〇〇〇 全 三〇〇	來省 醫務局長ニ挨拶 陸軍省出發 陸軍軍醫學校到着 臨時東京第一陸軍病院到着 見學終了
七月二十四日	前 八三〇 全 一〇〇〇 後 一〇三〇 全 三〇〇 全 五〇〇	陸軍省出發 臨時東京第三陸軍病院到着 全右出發 衛生材料本廠到着 見學終了

別紙

泰國海軍軍醫ノ見學行動日程

月 日	午前(後)	見 學 行 動
七月二十二日	前 九三〇 全 九四五 全 一〇〇〇 後 一〇〇〇 全 三〇〇	來省 醫務局長ニ挨拶 陸軍省出發 陸軍軍醫學校到着 臨時東京第一陸軍病院到着 見學終了
七月二十四日	前 八三〇 全 一〇〇〇 後 一〇三〇 全 三〇〇 全 五〇〇	陸軍省出發 臨時東京第三陸軍病院到着 全右出發 衛生材料本廠到着 見學終了

備考

- 一、一行誘導ノ爲陸軍省醫務局平賀軍醫少佐同行ス
- 二、晝食ハ軍醫學校及臨時東京第三陸軍病院ニ於テ準備ス

備考

- 一、一行誘導ノ爲陸軍省醫務局平賀軍醫少佐同行ス
- 二、晝食ハ軍醫學校及臨時東京第三陸軍病院ニ於テ準備ス



THE THAI LEGATION,
TOKIO.



昭和十五年七月十一日

三四九

陸軍省副官

川原直一殿



陸軍省副官

ウイラヨータ



拝啓 今般事朝セル泰國海軍之医大佐リック・スミット
令海軍之医少佐クニカムチャット・ヨータ・パートハ左記ノ事項ヲ
見察希望致シ居リ候向何卒御許可相成度以返ル御依頼得也

若具

一 東京ニ於テ陸軍病院ニ因スル一般

夏時節 昭和十五年七月二十一日

陸軍之医掛板ノ使用スル携帶治療靴背囊
並ニ使用容器 (戰時、平時)
医療具及藥品類ヲ容レ置ク移動性容器
(戰時、平時)

七月二十四日

株式会社島津製作所

七月二十六日

727607 551

老三四九

衛廠甲第二七〇號

泰國軍醫見學ニ關スル件報告

昭和十五年八月十日

陸軍衛生材料本廠長 清水 寅

陸軍大臣 東條英機 殿

昭和十五年七月十八日陸普第四九二三號通牒ニ係リ首題ノ件大正十三年陸密第三六七號ニ依リ別紙ノ通牒告ス



軍

壹 3419

泰國軍醫見學ニ關スル報告

一、見學一般ノ景況

七月廿四日午後三時海軍軍醫大佐以下三名來廠シ製藥工場・
器械製作工場・義肢製作工場及醫療用自動車・醫板類等約二
時間ニ亘リ見學ス

二、見學ノ目的

自國ノ衛生業務改善ノ資料トスルナラン

三、見學間研究或ハ質疑セシ事項

ナシ

四、其他參考トスヘキ事項

ナシ

2/3

泰國軍醫見學ニ關スル報告

一、見學一般ノ景況

七月廿四日午後三時海軍軍醫大佐以下三名來廠シ製藥工場、
器械製作工場、義肢製作工場及醫療用自動車、醫極類等約二
時間ニ亘リ見學ス

二、見學ノ目的

自國ノ衛生業務改善ノ資料トスルナラン

三、見學間研究或ハ質疑セシ事項

ナシ

四、其他參考トスヘキ事項

ナシ

卷 三四一九

兵器本部經由
島兵辰第二九七號

泰國人弊社工場參觀實施狀況報告ノ件

昭和十五年九月三十日

京橋市京區河原町通藤下少船町會社倉庫

株式會社島津製作所事業管理人

島津源吉

陸軍大臣 東條英機 殿

昭和十五年七月十八日附陸普第四九二三號ヲ以テ御許可相受候
首題ノ件左記ノ通り實施セシメ候條此段御報告申上候

記

一、參觀 日 時

昭和十五年九月二十四日
午後二時—午後四時十分

二、參觀者ノ國籍
身分又ハ職業氏名

泰國軍醫將校 少佐
海軍軍醫將校 少佐
クレックスミット
クレカチヤット
ヨーターハート



代表會社
認印



陸軍	昭和十五年九月三十日
兵器本部	經由第 五 號

壹 3419

一、參觀セシ工場名

陸軍軍醫大尉 ラムケンリット、アバカラ

京都市中京區西ノ京桑原町十八番地

株式會社島津製作所三條工場

軍監理工場タル第三類第三工場及軍監理
外工場即チ第二、第四、第五、養成工場

一、案内者又ハ説明者
身分又ハ職業氏名

當社海外課副長 松田新右衛門

一、立會者ノ身分又ハ
職業氏名

當社第三工場課長 關 戸 信 吉

一、參觀者ノ着眼
及應答事項

問

「從來シーメンス會社製ノ線器械ヲ購入シテ居タガ
現下ノ國際情勢上入手困難トナリシ爲、將來ハ近
時著シク進歩發達セル日本製ノ線器械ヲ輸入シ度
イト思ツテ居ルガ充分斡旋ノ勞ヲお願いシ度イ」

答

「シーメンスノ型錄ヲ見セ下サツタラソレニ相當
スル製品ヲ幾ラデモ造リ致シマス」

問

「最近英、米ニ滞在シテ日本經由テ歸國スルモノガ
アルガ、ソノ際二ヶ月位御社ノ工場デノ研究ヲ差
許シテ戴ケルナラバ幸デアル」

答

「個人トシテオ答スル事ハ出來兼ネマスガ軍當局ヘモ
お願いシテ希望ニ副フベク努メ度イ」

一、感

想

一、其ノ他参考事項

一行ハ見學中終始眞剣ナル態度ニテ見
學シ特ニレントゲン器械ノ優秀ナルニ
對シ驚異ノ意ヲ表ハシテイタ
一行ハ當社本店理科學器械標本ノ見學
ヲ濟シ三條工場へ來場、午後四時十分
見學ヲ終へ神戸へ赴ク可ク京都驛へ向
ヘリ

以
上

號 〇 二 第

政務官 回付 (執行前)

陸軍部

(執行後)

審案 筆記者

陸

陸

航空本部 15.8.28 軍受付

保有期限

三年

決裁指定

局長委任

執行指定

原

連 帶 長 (部) 局

決 (裁) 行 覽 回 後 長 (部) 局

壹第 四 一 七 七 號

吉林省榆樹縣訪日教育視察團ニ對シ便
宜供與方ノ件

駐日滿洲國大使館

起元廳 (課名)

件 番 號

委

政務次官 官

委

參事官 高級副官 局長

代

主務長

主務副官

書記官

主務員

大官房

主務局長

了結

受領

受領

昭和 年 月 日

昭和 年 八月 廿 八 日

昭和 年 八月 廿 八 日

昭和 年 八月 廿 八 日

航本 醫事 銃砲

上等

(陸普)

副官ヨリ臨時東京第一陸軍病院長宛通牒

首題一行別紙二十三名ハ來ル九月九日貴病院

傷病兵ヲ慰問致シ度趣ニ付
出向ノ節ハ可然

便宜供與相煩シ度

陸普第五九九九號

昭和五年八月廿九日

副官ヨリ株式會社日立製作所株式會社

社島津製作所各社長宛通牒

首題一行別紙二十三名ニ對シ來ル九月十四日貴社

日立工場見學方許可セラレ候ニ付便宜供與方

相煩シ度

追而見學範圍ハ第三類ニ付申添フ

注意株式會社島津製作所宛ハ(一)内ヲ九月

二十日貴社京都工場ニ作ル

陸普第五九九九號 昭和五年八月廿九日

副官ヨリ憲兵司令部本部長、兵器本部總務部長、航空本部總務部長、海軍省副官宛
通牒

首題一行別紙二十三名ニ對シ左記ノ通見學方許
可セラレタルニ付承知相成度

追而見學範圍ハ第三類ニ付申添フ

左記 陸普第五九九九號 昭和五年八月廿九日

九月九日 臨時東京第一陸軍病院（慰問）

九月十日 株式會社日立製作所日立工場

九月十五日 株式會社島津製作所京都工場

注意

兵器本部 航空本部 海軍省 宛左記ハ「」内

ヲ除ク

副官ヨリ駐日滿洲國大使館參事官宛回答
八月二十日附日大總第五五二號首題一件取計
置キタルニ付承知相成度

陸普第五九九九號

昭和七年八月廿九日



三六

日大總第五五二四一七七

紙空本部 御中

駐日滿洲國大使館
參事官 野田 清

15.8.23
前官
陸軍省

15.8.23
陸軍省
課

15.8.22
136
陸軍省
軍務課



秘密並ニ軍用治欠源秘密保護
法ニ依リ秘密洩洩行リ除キ長クナシ
八月廿五
軍務課中
欽此

差支ハナシ

軍資

陸軍

添付
一、名簿日程 八
一、東京日程 八

團一行別表二三名ハ同團
リ貴國各地ニ視察見學旅
御依頼申上候 敬具

駐日滿洲國大使館

日大納第五五二四一七七

康德七年八月二十一日

駐日滿洲國大使館
參事官 野田清武

15.8.23
省軍務課

15.8.23
省軍務課

陸軍
15.8.22
136
軍務課



臨時東京第一陸軍病院(慰問)

九月九日 株式會社日立製作所 日立工場 カジコ

株式會社島津製作所 東京部 席

陸軍省軍務局軍務課

團一行別表二三名ハ同團

江川一夫引率ノ下ニ別添名簿及日程表ニ依リ貴國各地ニ視察見學旅

行可致候ニ付諸般ノ便宜供與方御高配賜度御依頼申上候 敬具

追而東京滞在豫定表ハ別紙ノ通りニ御座候

添付

- 一名簿日程 八
- 一東京日程 八

駐日滿洲國大使館

日大總第五五二
四一七七

康德七年八月二十一日

駐日滿洲國大使館

參事官 野田清

武

陸軍省副官
川原直一殿

吉林省榆樹縣訪日教育視察團ニ對スル
便宜供與手配方依頼ノ件

拜啓 陳者敝國吉林省榆樹縣訪日教育視察團一行別表二三名ハ同團
江川一夫引率ノ下ニ別添名簿及日程表ニ依リ貴國各地ニ視察見學旅
行可致候ニ付諸般ノ便宜供與方御高配賜度御依頼申上候 敬具
追而東京滞在豫定表ハ別紙ノ通りニ御座候

添付

- 一名簿日程 八
- 一東京日程 八

15.8.23
陸軍省
15.8.23
陸軍省
15.8.22
136
軍務課



駐日滿洲國大使館

吉林省榆樹縣訪日教育視察團（一行二三名）

東京豫定日程

旅宿

九月六日（金）

午后 四、五、九 上野着（新湯ヨリ）

六、〇、〇 宮城遙拜

七日（土）

午前 八、〇、〇 中央市場

九、三、〇 國會議事堂

一、一、〇、〇 文部省

午后

明治神宮、靖國神社、東郷神社參拜、上野公園、動物園

八日（日）

午前

國防館、海軍館、遊就館
科學博物館、美術館、銀座

午后 一、〇、〇 東京驛、丸ビル、其他

九日（月）

午前 九、三、〇 大使館

十、三、〇 東京日日新聞社

一、一、三、〇 陸軍病院慰問

午后 一、〇、〇 文理科大學

二、〇、〇 附屬小學校

三、〇、〇 高輪小學校

自由見學

六、〇、〇 上野發（土浦へ）

目的

友邦日本ノ紀元二千六百年ニ當リ特ニ
 伊勢神宮ト檀原神宮ニ參拜シ宏遠崇高ナル日本精神ノ由リテ來ル所以ノ
 根源ニ觸レ之ヲ感得スルト同時ニ時局下日本内地ニ於ケル初等教育社會
 教育特殊教育並ニ文化施設等ノ真相ヲ視察シ更ニ山紫水明ノ日本如實ノ
 姿ト敦厚ナル人情ニ觸レ以テ日滿一德一心ノ實ヲ我國教育ノ上ニ具現セ
 ントスル實トナスニアリ。

(吉林省榆樹縣訪日教育視察團)名簿

一、引率者

區別	所	屬	職名	氏名	年齢	備考
引率者	縣	公署	庶務科長	江川一夫	三〇	
連絡員	々		視學	高丸貞雄	四〇	
通譯	女子國民優級學校		教諭	宮谷藤太郎	三六	

二、團員

團長	副團長	縣公署	學務局長	校長
縣公署	東關國民優級學校	學務局長	校長	校長
賈春山	孔憲章	賈春山	孔憲章	孔憲章
三五	三四	三五	三四	三四

團員	北關國民學校	女子國民優級學校	向陽池國民優級學校	小房身國民學舍	青山堡國民學校	五棵樹國民優級學校	黑林子國民優級學校
教諭	校長	教諭	々	舍長	校長	々	々
譚希堯	薛文德	孟昭林	馮印閣	劉振東	秦溥霖	姚希崇	馬兆麟
二七	三〇	二三	二六	二八	二九	三二	三七

土橋子國民優級學校	大新立屯國民優級學校	大八號國民優級學校	大嶺國民優級學校	縣公署
教諭	々	教輔	教諭	屬官
汪德洋	張福祺	周振英	胡琳	徐景賢
二七	三一	二一	三四	二九

區別所屬	職名	氏名	年齡	備考
引率者 縣公署	庶務科長	江川一夫	三〇	
連絡員	視學	高丸貞雄	四〇	
通譯	教諭	宮谷藤太郎	三六	

二、團員

團長	副團長
縣公署 學務股長 賈春山 三五	東關國民優級學校 校長 孔憲章 三四

團員	職名	氏名	年齡	備考
北關國民學校	校長	薛文德	三〇	
女子國民優級學校	教諭	孟昭林	二三	
向陽泡國民優級學校	教諭	劉顯達	四二	
小房身國民學舍	舍長	馮印閣	二六	
青山堡國民學校	校長	劉振東	二八	
五棵樹國民優級學校	校長	秦溥霖	二九	
黑林子國民優級學校	校長	姚希崇	三二	
黑林子國民優級學校	校長	馬兆麟	三七	

職名	氏名	年齡	備考
教諭	汪德洋	二七	
教諭	張福祺	三一	
教諭	周振英	二一	
教諭	胡琳	三四	
屬官	徐景賢	二九	
吏員	蕭殿魁	二六	
教諭	于秀雅	二〇	女子
教諭	呂雲卿	二三	
教諭	傅秀娟	一九	

自康德七年九月一日
至康德七年九月二十六日

吉林省 榆樹縣 訪日教育視察日程

1. 鋼網給へて之答ニ依リテハ此式鋼網ノ領通書
 2. 鋼網領通書 (前件鋼網領通書及前件鋼網領通書)
 3. 鋼網領通書 (前件鋼網領通書及前件鋼網領通書)

陸軍省
 昭和十五年九月二十六日
 前官

大阪陸軍造兵廠經由

兵器本部經由
 島兵辰第二八二號

滿洲國人弊社工場製造實施狀況報告ノ件

昭和十五年九月二十六日

三三三市京區河原町通條下少船入町言言大倉地
 株式會社島津製作所事業管理人

島津源吉

陸軍大臣 東條英機 殿

昭和十五年八月二十九日附陸普第五九九九號ヲ以テ御許可相受
 候首題ノ件左記ノ通り實施セシメ候條此段御報告申上候

記

一、參觀 觀 日 時 昭和十五年九月二十一日
 午前十時十五分—午前十時四十分

一、參觀者ノ國籍 吉林省榆樹縣訪日教育視察團
 身分又ハ職業氏名 引率者 縣公署庶務課長 江川一 夫外二名
 團長 菅 春山 外十九名

一、參觀セシ工場名 京都市中京區三條通西大路西入ル桑原町一八

株式會社 島津製作所三條工場

工場監督官認印

會社代表者印

陸軍省	昭和十五年九月二十六日
兵器本部	經由第五九九九號

軍監理外タル工場即チ第一、第四、第五、第九工場等

一、案内者又ハ説明者
身分又ハ職業氏名

當社海外課課員 佐々木輝久

一、立會者ノ身分又ハ
職業 氏名

當社工務課課員 山田正寅

一、參觀者ノ着眼及
應答事項

當方ノ説明ヲ聽取セルノミニテ何等質問スルトコロ
ナシ

一、感想

靜肅ニシテ特ニ感想ナシ

一、其他ノ参考事項

一行ハ本邦ノ文化發達ノ狀況及教育ノ普及狀態ヲ見
聞スルト共ニ事變下ニ於ケル本邦國內ノ現狀見學ノ
爲來場セルモノナリ
一行ハ畝傍ヨリ十九日來京シ二十一日當工場本社ノ
理科學標本見學後當工場ヲ參觀ス
退場後京都驛ヨリ大阪鐘紡工場ニ赴ク豫定ナリ

以 上

危
文一五第二五號

昭和十五年九月二十八日

兵器本部經由



兵器本部

經由第六五七號

昭和十五年九月五日

東京市麹町區丸の内二丁目十二番地

株式會社日立製作所取締役社長小平浪平代理

取締役總務部長 伊藤

藤文

壽

陸軍大臣 東條英機 殿

外國人工場觀覽ノ件報告

昭和十五年八月二十九日附陸普第五九九九號ヲ以テ觀覽御許可賜候滿洲國吉林省榆樹縣訪日教育視察團一行二十三名ニ對スル觀覽ノ件左記及報告候

記

- 一、目的並ニ觀覽工場名
日之工場
工場一般觀覽
- 二、觀覽者名
滿洲國吉林省榆樹縣訪日教育視察團
二十三名（引卒者 江川一夫）

三、狀況

4177



九月十四日
午前八時十四分日立歸着、日立鐵山庶務課山口氏及弊社日立工場向

田庶務課員出迎へ山口氏ノ案内ニテ日立鐵山見學ニ出發

午前十一時日立工場海岸工場ニ來場油谷教育課長ヨリ工場概況説明
後見本、模型陳列室ヲ案内ス

午後十二時半晝食後事務所表玄関ニテ一同記念撮影ヲナシ海岸工場
ノ一部即チ配製、回轉機、變壓器工場ヲ簡單ニ案内ス亦教育工場、
女子寮、見習生寮、病院、成澤第一青年學校ヲ案内午後三時三十二
分日立歸發ニテ水戸ニ向ハレタリ

工場見學中ハ孟昭林氏通譯ノ任ニ當リ一同ハ言語不通ノ爲何等ノ質
問モナク食事ノ際工場員トノ間ニ多少ノ世間話アリタル程度ナリ
當日水戸憲兵隊ヨリ久保田伍長殿、日立警察署特高係ヨリ野口巡査
ノ隨行アリタリ

以上

第一二第 號

(裁決) 行決 覽 回 後		帶 連		決 行 指 定		決 裁 指 定		保 存 期 限	
長(部)局		長(部)局		大 臣		件 番		領 號	
				委		名		號	
				政 務 官 次		官 次			
長 課		長 課		長 局 務 主 官 副 級 高 官 與 參		書 記 官			
		醫 事 銃 砲 兵 務		主 務 副 官		主 務 副 官			
				員 課 務 主		主 務 副 官			
				房 官 臣 大		課 局 務 主			
				了 結 領 受		出 提 領 受		號 番	
				昭 和 年 月 日		昭 和 年 月 日		昭 和 年 月 日	
				昭 和 年 月 日		昭 和 年 月 日		昭 和 年 月 日	

政務官回付(決行前)

(決行後)

審案 筆記者

陸

軍

奉天第四一四三號
 起元應(課名)
 駐日滿洲國大使館
 滿洲國興安北省訪日視察團ニ對シ便宜
 洪興方ノ件

昭和五年八月廿六日
 八月廿七日
 十月廿日

(陸普)

副官ヨリ臨時東京第一陸軍病院長宛通牒

首題一行別紙十四名ハ來ル十月九日午後一時貴病院

傷病兵ヲ慰問致シ度趣ニ付出向ノ節ハ可然便

宜供與相煩シ度

陸普第五九六七號 昭和五年八月廿七日

副官ヨリ教育總監部庶務課長宛通牒

首題一行別紙十四名ハ來ル九月二十日自熊本陸軍幼年

學校見學致シ度趣ニ付便宜供與方相煩シ度

陸普第五九六七號 昭和五年八月廿七日

副官ヨリ日本製鐵株式會社長宛通牒

首題一行別紙十四名ニ對シ來ル九月二十八日貴社ハ

製鐵所見學方許可セラレ候ニ付便宜供與方相

煩シ度

追テ見學範圍ハ第三類ニ付申添フ

陸普第五九六七號 昭和五年八月廿七日

副官ヨリ株式會社川崎造船所社長宛通牒

前同文但シ(一)内ヲ「十月十六日貴社工場」ニ作ル

陸普第五九六七號 昭和五年八月廿七日

副官ヨリ憲兵司令部本部長兵器本部總務部長

海軍省副官宛通牒

首題一行別紙十四名ニ對シ左記ノ通見學方許可
セラレタルニ付承知相成度

左記

九月二十八日 日本製鐵株式會社八幡製鐵所

(見學範圍第三類)

九月二十九日 熊本陸軍幼年學校

十月九日 臨時東京第一陸軍病院(慰問)

○十月十六日 株式會社川崎造船所

(見學範圍第三類)

注意 兵器本部及海軍省宛 左記 八日本製鐵株
株式會社並株式會社川崎造船所ノミトス

總務第五九六七號

昭和五年八月廿七日

副官ヨリ駐日滿洲國大使館參事官宛回答

八月十五日附日大總第五三二號 首題ノ件取計ニ
置キタルニ付承知相成度

總務第五九六七號

昭和五年八月廿七日

(印)

日大總第五三二號

廣德七年八月十五日

差支へし

駐日滿洲國大使館軍務課

陸軍省

15.8.27
前于
陸軍省

15.8.19
陸軍省
警務課

陸軍省
15.8.15
警務課

15.8.15
警務課

15.8.17
受602號
兵務課

便宜供與手配方依頼ノ件

拜啓 陳者敝國興安北省訪日視察團一行別表一四名ハ同國民生科屬官横田正三引率ノ下ニ別添名簿及日程表ニ依リ貴國各地ニ視察見學旅行可致候ニ付諸般ノ便宜供與方御高配賜度御依頼申上候

敬具

追而東京滞在豫定表ハ別紙ノ通りニ御座候

- 添附
- 一 名簿日程 七
 - 一 東京日程 二

駐日滿洲國大使館

日大總第五三二號

廣德七年八月十五日

陸軍省

陸軍省 15.8.27

陸軍省 15.8.19

陸軍省 15.8.15

陸軍省 15.8.17

十月九日 臨時東京第一陸軍病院 尉内致レ
度并學ニ休意見所ノ後
陸軍省軍務局軍務課
医事課御中

滿洲國興安北省訪日視察團ニ對スル
便宜供與手配方依頼ノ件

拜啓 陳者敝國興安北省訪日視察團一行別表一四名ハ同國民生科屬
官横田正三引率ノ下ニ別添名簿及日程表ニ依リ貴國各地ニ視察見學
旅行可致候ニ付諸般ノ便宜供與方御高配賜度御依頼申上候

敬具

追而東京滞在豫定表ハ別紙ノ通りニ御座候

添附

- 一 名簿日程 七
- 一 東京日程 二

駐日滿洲國大使館

日大總第五三二號

庚德七年八月十五日

陸軍省

陸軍省副官

川原直一殿

駐日滿洲國大使館
參事官 野田

陸軍省 15.8.27

陸軍省 15.8.19

陸軍省 15.8.15

陸軍省 15.8.17

滿洲國興安北省訪日視察團ニ對スル
便宜供與手配方依頼ノ件

拜啓 陳者敝國興安北省訪日視察團一行別表一四名ハ同國民生科屬
官横田正三引率ノ下ニ別添名簿及日程表ニ依リ貴國各地ニ視察見學
旅行可致候ニ付諸般ノ便宜供與方御高配賜度御依頼申上候

敬具

追而東京滞在豫定表ハ別紙ノ通りニ御座候

添附

- 一 名簿日程 七
- 一 東京日程 二

駐日滿洲國大使館

滿洲國興安北省訪日觀察團（一行十四名）

東京旅定日程

旅 宿

十月 七日（水）午后 五二〇 東京着（名古屋ヨリ）

八日（木）午前 九〇〇 宮 城 遊 拜

九三〇 市 役 所

一〇三〇 大 使 館

明治神宮、繪畫館、靖國神社

九日（金）午前 九〇〇 陸 軍 省

九三〇 文 部 省

一〇三〇 講 談 社

午后 一〇〇〇 陸軍第一病院

一〇日（土）午前 九〇〇 帝 國 大 學

一〇三〇 九段市立第一中學

一一日（日）午前 八〇〇 中 央 市 場

一〇〇〇 商 會 議 事 堂

午 后 市 內 見 學

一二日（月）一三日（火） 內 原 日 光 往 復

一三日（火）午后 九三〇 東 京 發（大阪へ）

旅行日程表

日次	月日	曜	地名	時刻	列車番	車號	視察場所	宿泊地	其他
1	9.24	木	海拉爾	發口 5.26		702		車中	
2	25	金	哈爾濱	着口 2.10					
				發口 4.55		16			急行
			新京	着口 9.30				新京	
3	26	土		發口 6.50		8	新京神社 民生部	車中	急行 のぞみ
4	27	日	釜山	着口 10.10					
				發口 11.30		連絡船		船中	
5	28	月	下關	着セ 7.15					
				發セ 7.40		連絡船			

門	司	發	8.05	13	八幡製鐵所	
八	幡	着	8.21			

九月 熊本陸軍幼年学校
 兵務課御中
 陸軍省軍務局軍務課

九月二十八日
 日本製鉄株式会社八幡製鉄所
 陸軍省軍務局軍務課
 銃砲課御中

別	府	着	7.36	09	阿蘇山 阿蘇火山 阿蘇山 阿蘇山 阿蘇山 阿蘇山	熊本
8	10.1	木	滞	在	温泉地帯研究	全

阿蘇山 阿蘇火山
阿蘇山 阿蘇火山

十月十六日川崎造船所

		門	發セ	8.05	13	八橋製鐵所	
		八	着セ	8.41			
		熊	本	着口	6.15	熊本部 幼年部	熊本
6	29	火	在			農業試験場 農林部 校(私立合志義塾)	全
7	30	坊	中	發セ	9.10	509	
				着セ	10.50		
				發口	3.44	513	
		別	府	着口	7.36		府
8	10.1	木	在			温泉地帯調査研究	全

			門 司	發セ 8.05	13		
			八 幡	着セ 8.41		<u>八幡製鐵所</u>	
				發コ 1.27	35		
			熊 本	着コ 6.13		師團師令部 <u>幼年學</u> 熊 本 校 農學校 蚕業試驗場 農林學 校(私立合志轉讓)	全
6	29	火	滯 在				
7	30	六		發セ 9.10	509		
			坊 中	着セ 10.50		阿蘇登山 阿蘇火山 研究所	
				發コ 3.44	513		
			別, 府	着コ 7.36			府
8	10.1	木	滯 在			溫泉地調査研究	全

9	2	金		發セ	7.00	216			
			門 司	着セ	10.30				
			下 關	發コ	0.50	6			急 行
			京 都	着コ	11.35		御所 桃山御陵 本願寺	京 都	
10	3	土	滯 在				陸軍病院 織物工場	全	
11	4	日		發セ	7.24	613			
			畝 傍	着セ	9.30		橿原神宮參拜 清滯奉仕		
				發コ	5.05	628			
			奈 良	着コ	5.56		女高師	奈 良	
12	5	月		發コ	3.10	310	博物館 大佛 三笠山 正倉院		
			山 田	着コ	5.37			山 田	

13	6	火		發口 3.34	218	大神宮 皇宮 聖蹟 二見瀨	
			名古屋	着口 5.51		名古屋城	名古屋
14	7	水		發セ 11.55	1032		特急 かもめ
			東京	着口 5.20		宮城遙拜	東京
15	8	木	滞在			大使館 明治神宮 靖國神社	全
16	9	金	全			對滿事務局 大中小 學校	全
17	10	土	全			陸軍 文部省 新聞 社 病院	全
18	11	日	全			繪畫館 講談社	全
19	12	月	上野	發セ 9.10	223		
			友部	着セ 11.23		内原訓練所見學	
				發口 440	230		

			上野	着口 6.49			東京
20	13	火	全	發七 8.20	801		
			日光	着七 10.47		日光東照宮 中禪 寺湖	
				發口 4.15	802		
			上野	着口 6.32			
			東京	發口 9.30	10.33		車中急行
21	14	水	大阪	着七 8.37		領事館 盲聾學校 紡織工場	大阪
22	15	木	滯在			進幣局 新聞社 師團師令部	全
23	16	金	全			<u>造船所見學</u>	全
24	17	土	大阪	發七 8.20	115		
25	18	日	神戸	着七 8.53			

				發	正午	大連航路		船中
26	19	月	門	司				
27	20	火						
28	21	水	大	連	着	朝	滿蒙資源館見學	大連
29	22	木			發口	4.55	17	車中急行
30	23	金	哈爾濱		着七	8.05		
					發七	10.30	701	車中
31	24	土	海拉爾		着七	6.15		

別紙

興安北省訪日教育視察團員名簿

氏名	年令	官職	名	性別	民族別	所屬	備考
横田正三	二七	民生科屬官		男	日	省公署	引率者
圖蒙巴雅爾	二六	全		全	蒙	全	全日、滿語ヲ解ス
黎孤島	四〇	薦任教諭		全	滿	省立第一國民高等學校	
ムア、クツクリン	四八	委任教諭		全	露	省立第三國民高等學校	
石福龜	四二	全校長		全	滿	滿洲里	
奇米德思義	二七	國民學校教師		全	蒙	西新巴旗	
達錫	二三	全		全	全	全	
セドブ	二六	國民優級學校教師		全	全	東新巴旗	

阿爾騰巴雅爾	ペリメニョフ	ヴソビコフ	張忠一	佛爾國道	アユルヂナ
三八	四二	五三	二三	三八	三一
國民學校長	旗公署職員	國民優級學校校長	國民學校教諭	全 校長	國民學校教師
全	全	全	全	全	全
蒙	露	露	滿	全	全
索倫旗	東額旗	東額旗	海拉爾市	陳巴旗	全

別紙

興安北省訪日教育視察團員名簿

氏名	年令	官職	性別	民族別	所屬	備考
横田正三	二七	民生科屬官	男	日	省公署	引率者
圖蒙巴雅爾	二六	全	全	蒙	全	全日、滿語ヲ解ス
黎孤島	四〇	薦任教諭	全	滿	省立第一國民高等學校	
ム、クツクリン	四八	委任教諭	全	露	省立第三國民高等學校	
石福島	四二	全校長	全	滿	滿洲里	
奇米德思義	二七	國民學校教師	全	蒙	西新巴旗	
達錫	二三	全	全	全	全	
セドブ	二六	國民優級學校教師	全	全	東新巴旗	

阿爾騰巴雅爾	ベリメニヨフ	ヴソビコフ	張忠一	佛爾國道	アユルヂナ
三八	四二	五三	二三	三八	三一
國民學校長	旗公署職員	國民優級學校校長	國民學校教諭	全 校長	國民學校教師
全	全	全	全	全	全
蒙	露	露	滿	全	全
索倫旗	東額旗	東額旗	海拉爾市	陳巴旗	全

陸軍省

様式第四

陸軍造兵廠小倉工廠經由
兵器本部經由

外國人當工場參觀實施狀況ノ報告

福岡縣八幡市

日本製鉄株式会社 八幡製鉄所

代表者 所長 渡邊 義介

昭和十五年九月廿三日

陸軍大臣 東條英機 殿

昭和十五年八月廿七日附陸普第五九六七號ヲ以テ御許可相受ケ候
首題ノ件左記ノ通り實施セシメ候條此段及御報告候也

左記

陸軍省	昭和十五年九月廿三日
兵器本部	經由第...八號

昭和十五年十月十五日 陸軍省大臣官署

工場監督 官認印

陸軍省 昭和十五年十月十五日 3118 軍務課

會社(又ハ工場)代表者 認印

4163

一、參觀日時 昭和十五年九月廿八日 午前十時三十分ノ間
正午

二、參觀者ノ國籍、身分 又ハ職業、氏名
滿洲國興安北省公署 奇倫巴圖 外十二名

三、見學セシ工場名 (詳細ニ)
東田熔鑪爐、第一製鋼工場、第一厚板工場、軌條工場

四、案内者若ハ説明者ノ身分又ハ職業、氏名
八幡製鐵所書記補 佐藤 千年

五、立會者ノ身分又ハ職業、氏名
八幡警察署 巡查 梅野 貞志
陸軍監督官陸軍中尉 中村 峯一

六、參觀者ノ著眼及應答事項
製鐵作業ノ説明ヲ聞キ實況ヲ皆驚嘆シツツ見學シタルノミニテ特ニ著眼セル處ナシ
而シテ質問應答ナシ

七、感想
尨大ナル施設ニ驚嘆シ居レリ

八、其ノ他參考事項 (來訪ノ經路及行先等)
午前十時門司ヨリ來幡午後一時熊本ニ向フ

第 二 二 號

(裁決) 行決 覽 回 後	帶 連		決 行 指 定	決 裁 指 定	保 存 期 限
	長(部)局	長(部)局			
			大 臣	政 務 次 官	受 領 番 號
			委 任	委 任	壹 第 五 〇 三 一 號
			官	官	少 年 張 三 際 之 便 宜 供 與 人 件
長 課	長 課		長 局 務 主 官	高 級 副 官	起 元 廳 (課 名)
			代 理	和 山	東 北 帝 國 大 學
			長 課 務 主 官	副 官	審 案 筆 記 者
			河 村	主 務	陸 軍
			員 課 務 主 官	和 山	
			房 官 臣 大	課 局 務 主	
			了 結 領 受	出 提 領 受	號 番
			昭 和 年	昭 和 年	課 務 課 一 〇 〇 〇 號
			十 月 廿 八 日	十 月 廿 三 日	
				昭 和 年 十 月 廿 四 日	

政 務 官 回 付 (決 行 前)

拾 年 保

(決 行 後)

審 案 筆 記 者



陸 軍

(陸支普)

副官ヨリ支那派遣軍、北支那方面軍
第十三軍各副官宛通牒

(航空托送又ハ航空便)

今般東洋精神史上ヨリ現在ニ於ケル精神支那
ヲ視察調査ノ目的ヲ以テ、^{左記}東北帝國大學教授鈴木
宗忠ヲ北支・中支ニ出張セシメ度ニ付便宜供
與方相煩シ度旨同大學總長ヨリ依頼越シテ
リタルニ付貴地出向ノ節ハ可然御取計ヒ相成
度通牒ス

記 陸支普第二三四號

一、北京ニ於ケル視察調査

自十月二十日頃 昭和十五年十月廿五日
至十一月十日頃 約十五日間

一、上海及南京ニ於ケル視察調査

自十一月十日頃 約十五日間
至同 二十五日頃

陸軍

次官三三東北帝國大學總長宛

回答

十月十二日附秘發第三七〇號照會ニ係ル貴校
教授鈴木宗忠ニ函スル首題ノ件ニ對シテハ各出
先軍宛夫ノ手配済ミニ付諒承相成度回答候也
追テ此種ノ申越シハ爾今文部省ヲ經由セラ
レ度申添ヘ候

陸支普第二二三四號

昭和七年十月廿五日



秘發三七〇號

昭和十五年十月十二日

東北帝國大學總長 熊谷 岱

陸軍次官 豊田 貞次郎 殿

拜啓時下益々御清祥之段奉賀候

陳者本學教授鈴木宗忠今般滿洲國及中華民國へ出張ヲ命ゼラレ左記
ニ依リ視察調査爲致度候ニ付テハ現地軍ニ於テ特ニ便宜供與相成様
御取計相煩度御依頼申上候

敬具

尙本人ハ本學法文學部ニ於ケル宗教學講座擔任者ニ付申添候

記

一目的 東洋精神史上ヨリ現在ニ於ケル精神支那ヲ視察調査ノ



北帝國大學



一 期 間

爲

新 京 二 於 ケ ル 視 察 調 査

北 京 二 於 ケ ル 視 察 調 査

上 海 及 南 京 二 於 ケ ル 視 察 調 査

十 月 二 十 日 頃

自 十 月 廿 五 日 頃 至 十 月 十 日 頃 約 十 五 日 間

自 十 月 廿 五 日 頃 至 十 月 廿 五 日 頃 約 十 五 日 間



東北帝國大學總長

東北帝國大學公用
長型四號二重封筒

東京市麹町区永田町

陸軍省陸軍次官



田貞次郎殿



朝鮮ヲ經由シテ滿洲ニ入り

東北帝國大學

滿洲國ヲ北東ニ行ク所定

東北帝國大學教授

鈴木宗忠

十月廿五日ヨリ十一月十日マデ 北京

十一月十一日、十二日 青島

十一月十四日ヨリ五日マデ 上海

十一月廿日ヨリ廿日マデ 南京

十月廿日 新京 奉天經由 亦曰白山海關



紙 箋 附

昭和五年十月十四日 海軍大臣官房

本付陸軍宛ノモノト存セラルルニ付
回付致シ

東洋帝國大車

十月廿六日

結

陸軍大臣東條英機殿

陸軍省

五〇九

陸軍省
15.10.18
馬政課

祭詞奏上賜度候

謹啓 命用御慰靈第三

本件以...

馬政

於ヶル戦歿軍用動物慰靈ノ爲仙臺市追廻練兵場
二軍用動物 彰忠塔ヲ建設中ノ處今般竣功仕リ來ル
十月二十四日除幕式舉行致度候ニ就テハ當日祭詞
賜度御懇願申上候

書教ニテ處置済之

陸軍省兵務局馬政課

務所
畜産組合長



陸軍省
15.10.13
馬政課



閱

陸軍省

五〇九

祭詞奏上賜度候件



謹啓 念用初物慰靈第三

益々御清榮ノ段奉慶賀候

陳者皇紀二千六百年奉祝記念事業トシテ過去戰役

ニ於ケル戰歿軍用動物慰靈ノ爲仙臺市追廻練兵場

ニ軍用動物^馬 彰忠塔ヲ建設中ノ處今般竣功仕リ來ル

十月二十四日除幕式舉行致度候ニ就テハ當日祭詞

賜度御懇願申上候

昭和十五年十月十三日

仙臺師團司令部獸醫部取

軍用動物

發起人代表

宮城縣產馬畜産組合



陸軍大臣東條英機殿

注意

(本審案用紙) 拾年保 (内保存ノモノニ使用スルモノトス)

陸軍

保存期限

三年

決裁指定

局長委任

決行指定

第四二番

房官臣大		課局務主		大臣 委			件名	番受	政務次官 參與官 回付
了結	領受	出提	領受	號番	局長	主務	次官	政務	決裁前 後 連帶 課名
昭和 年	昭和 年	昭和 年	昭和 年	第 九 号	局長	主務	次官	政務	決裁後 連帶 課名
十月廿八日	十月廿五日	昭和十一年十月廿四日			局長	主務	次官	政務	決行(決裁)後 回覽課名
(裁決)行決 覽回後		帶 連		局長			起元廳(課)名 橫 浜 高 等 學 校		
局長		局長		局長			書記官		
局長		局長		局長			審案 筆記者		
長 課		長 課		長 課			審案 筆記者		
長 課		長 課		長 課			審案 筆記者		

陸普副官より横濱高等工業学校長へ通牒

十月十九日附願出ニ係ル前題ノ件別紙ノ通貸與
方許可セラレシニ付承知相成度候

追テ所費経費該貸與兵器保管ノ責ハ貴方負擔付申添テ

陸普第七五一二號 昭和七年十月廿五日

陸普副官より兵器部総務部長へ通牒

前題ノ件ニ関シ横濱高等工業学校より願出有
之別紙ノ通貸與方許可セラレシニ付可成度候
相成度候

追テ所費経費該貸與兵器保管ノ責ハ出札者

ノ負担ニ付申添テ

陸普第七五一二號 昭和七年十月廿五日



官房控

一、現用兵器

九二式重機關銃

十一年式輕機關銃

對戰車砲

步兵砲

四四式騎銃

九二式電話機

二、押收兵器

コルト式重機關銃

チエツコ輕機關銃

四十五耗ソ聯製對戰車砲

陸軍部 横濱

陸軍

軍用

會 期
場 所

自十一月一日至十一月三日

橫濱市中區大岡町 橫濱高等工業學校內

鐵	長	青	試	銃	小
			製		
		龍	步		
			兵		
兜	刀	刀	砲	劍	銃

— — — — —

御願書

昭和十五年十月十九日



昭和十五年十月十九日

横濱高等工業學長 富山

保



横濱高等工業學校

陸軍大臣 東條英機 殿

今般創立二十週年記念祭舉行ニツキ横濱市民一般ニ校内解放スル際
特ニ軍事普及ノ目的ヲ以テ兵器陳列致シ度別紙品目ノ兵器左記ノ通
借用致シ度此段御願上申候

尚之ニ要スル費用及保管ノ責ハ當方負擔仕可候

記

會期 自十一月一日至十一月三日

場所 横濱市中區大岡町 横濱高等工業學校内

陸軍省兵器局

右品借用仕度候也。

一 現用兵器

重機関銃

九二式

輕機関銃

十一式

對戰車砲

步兵砲

四四式騎銃

電話機

九二式

二 押收兵器

重機関銃

工儿卜式

輕機関銃

千工少工

對戰車砲

四十五把ノ騎銃

小銃

銃劍

步兵砲

新式

青龍刀

長刀

鐵兜

尚右邊搬費用ハ約五十圓ノ見込ニ付也

